

実用新案公報

昭54-387

⑤Int. Cl.<sup>2</sup>  
B 26 B 19 / 28

識別記号 ⑥日本分類  
125 G 320.1

庁内整理番号 ④公告  
6618-3C

昭和54年(1979)1月10日

(全 2 頁)

1

2

④往復式電気かみそりの内刃駆動機構

②実 願 昭47-19551

②出 願 昭47(1972)2月17日

公 開 昭48-95889

④昭48(1973)11月14日

⑦考 案 者 曾根原武男

松本市城西1の6の22

同 山崎正

松本市芳川野溝179の30

①出 願 人 泉精密工業株式会社

松本市元町2の3の1

④代 理 人 弁理士 牧哲郎

⑧実用新案登録請求の範囲

左右の内刃台1, 1'の一方の端面に係合溝5を形成し、これに他方の端面に設けた突出部5'を抜き挿し自在に一直線上に嵌合し、互に歯合するクランク歯車3, 3'のクランクピンを内刃台1, 1'の作動軸2, 2'となし、一方のクランク歯車をモータ6により回転するようにした往復式電気かみそりの内刃駆動機構。

考案の詳細な説明

本考案は往復式電気かみそりの振動を除去することを目的とする。

図面に示す実施例について説明すると、かまぼこ形の左右の内刃台1, 1'の一方の端面には係合溝5を形成し、これに他方の端面に設けた突出部5'が抜き挿し自在に一直線上に嵌合する。

しかして一方の内刃台1に備えた作動軸2と他

方の内刃台1'に備えた作動軸2'とをそれぞれ偏心して取付けたクランク歯車3, 3'を互に歯合させ、一方のクランク歯車3の中心軸4をモータ6に直結する。

5 なお7, 7'はかまぼこ形内刃台1, 1'の外周に並設する弧状の剃り刃で、図示しない円弧形に彎曲する固定外刃の内側に嵌合する。

10 本考案においてモータ6が駆動すると、互に歯合するクランク歯車3, 3'が反対方向に回転し、左右の内刃台1, 1'は円弧形に彎曲する固定外刃の内側で、矢印で示すように同時に内側に向け又は外側に向け反対方向に同一直線上に往復動する。

従つてその反力は互に打ち消し合うので、本考案を手で握ると内刃台が往復する度に発生すべき振動を全く感ずることがなく、安楽に使用できるという効果を生ずるばかりでなく、係合溝5に突出部5'が嵌合するので、左右の内刃台1, 1'が正しく一直線上に沿つて往復動するという効果も生ずる。

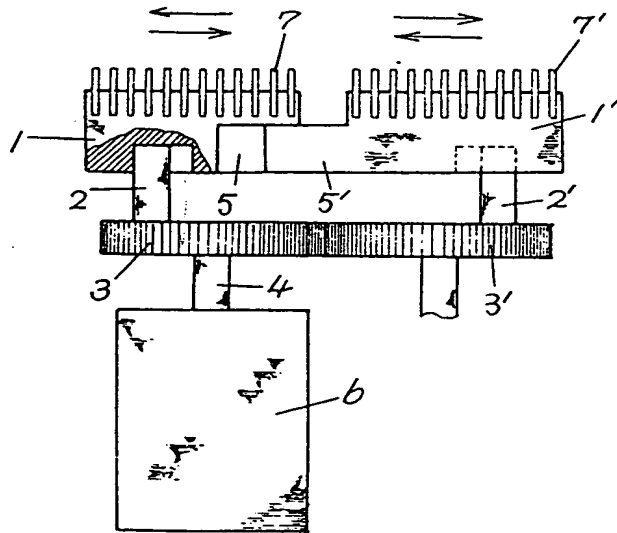
図面の簡単な説明

25 図面は本考案の実施例の正面図で、1, 1'は内刃台、2, 2'は作動軸、3, 3'はクランク歯車、4は中心軸、5は係合溝、5'は突出部、6はモータ。

⑨引用文献

実 公 昭36-26751

30 英国特許 1074278



⑤Int. Cl.<sup>2</sup>  
B 26 B 19 /

④回転式電気

②実 願  
②出 願  
公 開

⑦考 案 人

①出 願 人

⑦実用新案登  
モーターの  
摺動するカ  
内刃の軸と連  
方向にきわぞ  
一端に、該レ  
に当接してこ  
動レバーによ  
に、前記きわ  
転式電気かみ  
考案の詳細な  
本考案は回  
ぞり刃は外部  
入制御され、  
に独立して選  
あつて、特に  
の回転力を回  
カム体を前記  
軸上を上下に  
回転刃ときわ  
な切換構造を  
る事にある。  
以下、本考  
すると、1は  
部に設けた基